



SPECIAL REPORT

# 外国籍の職員とつくる これからの介護。

## 外国籍職員支援特集

2024年9月、特定技能制度を利用して、  
ベトナムから2名の介護職員を採用。

### CHAPTER 01 ベトナム人介護職員 2名が3階病棟に配属。

来日間もないベトナム人職員を囲んで座談会を開催。日本語がわからないところは通訳が補いつつ、仕事や目標、支援体制などについて話し合った。

—まずは自己紹介からお願いします。  
 ノンティ・タム ハノイ出身の29歳です。  
 グエン・ティ・ミー ホーチミン出身、35歳になります。

—お二人ともベトナムで、介護や日本語を学んでこられたと聞きました。  
 タム はい。1年くらい勉強して、特定技能の試験に合格することができました。  
 ミー ただ、日本語はむずかしくて、日本語教室にも通わせてもらっています。  
 タム 日本語をもっと覚えて、日本語能力試験でさらに上のレベルをめざしていきたいですね。

—介護のお仕事はどうですか。  
 ミー 慣れないことが多いですが、病棟の皆さんが親切に教えてくださいます。  
 タム ベッドまわりの掃除の仕方やシーツ交換も覚ええました。

岡田浩幸(介護福祉士) 二人とも、何事にも一生懸命に取り組んでくれていますね。シーツ交換と一緒に入ったスタッフも、彼女たちの仕事がとてもきれいで丁寧だと、感心していました。  
 近藤千春(看護師長) それに、二人とも

### CHAPTER 02 外国籍の人材がスムーズに 組織に溶け込めるように。

—お二人を迎えるためにどんな準備をされましたか。  
 近藤 2023年の10月に、外国籍の人材を採用している病院へ見学に行つて、翌月(外国籍職員支援委員会)を立ち上げ、院長や総看護師長、岡田をはじめとした教育担当の介護士などが集まり、検討を重ねてきました。

岡田 この制度を利用するのは初めてでしたから、職員にどうすれば理解してもらえるか検討しましたね。電子カルテのトップページで特定技能制度について紹介したり、二人のポスターを院内に貼りました。  
 近藤 それに、外部講師を招いてベトナムを知る勉強会を開いたり、職員が集まる歓迎会で、ベトナムとオンラインで繋いで、二人に自己紹介してもらいました。顔見知りの関係を作ったこともあり、職員たちも快く受け入れてくれているようです。

優しいですよ。笑顔もいいですし、介護職に向いています。

ミー 私はお年寄りのお世話をするのが好きなので、毎日、楽しいです。  
 タム 私は介護福祉士の資格を取るのが目標です。介護士としてずっと日本で働きたいと思っています。

近藤 何か困っていることはないですか。  
 ミー 大丈夫です。  
 タム 買い物もしていますが、日本はとても暮らしやすいです。  
 ミー 教育係の岡田さんも、実のお兄さんのように親切で…。

岡田 何でも相談してくださいね。

### COLUMN

●特定技能制度は、人手不足が深刻な産業分野において、一定の専門性を持つ外国人を労働力として受け入れる制度。介護分野では、介護技能評価試験と日本語試験の両方に合格することが受け入れの条件となる。病院や介護事業所で、この制度を利用した人材確保が進められている。

●日本での受け入れ期間は最大5年間だが、介護福祉士の国家資格を取得すれば在留資格「介護」に変更して、永続的に日本で働くことができる。

—そもそも特定技能制度を利用したのはどうしてですか。  
 近藤 やはり介護の人材不足です。若い力に頼りたいとなると、国内だけではもはや限界です。今回の試みを成功させ、ゆくゆくは継続的に外国人材を確保していきたいと考えています。

岡田 彼女たちに長く働いていただければ、次に来日する後輩たちの教育係になつてほしいですね。  
 近藤 教えることは彼女たち自身の成長にもつながりますね。

岡田 また、彼女たちは我々と違う視点を持っているので、そこにも期待しています。我々もいい刺激を受けて、介護の質のレベルアップに繋がっていきたくと思います。

近藤 本当にそうですね。彼女たちの優しさや一生懸命でひたむきな姿勢は、私たちも見習いたいと思います。

岡田 外国人職員に慣れない患者さんも多いと思いますが、ぜひ温かい目で見守っていただけたらと思います。

### BACK-STAGE

#### 医療機関に求められる ダイバーシティの推進。

●ダイバーシティは多様性という意味で、多様な人材を登用し、個々の能力を活かすことを指す。人材不足が深刻化する医療・介護の現場では昨今、外国人の受け入れが進められているが、そこで重要なのは、ダイバーシティの視点である。

●外国人が組織になじみ、能力を発揮できるように環境を整えていくのは、周囲の職員の理解や協力が不可欠である。みよし市民病院ではその重要性を認識し、新たな組織づくりに挑戦しようとしている。

